

ますようお願い申し上げます。また、本大会では若手研究者への支援を拡大し、若手研究者（大学院生・学部生）が研究発表しやすいよう研究発表費の全額補助等の措置を図っております。この制度の詳しい説明は大会通信に同封されていますので、再度ご案内いたします。

懇親会は、異国情緒あふれる横浜中華街の重慶飯店（別館）を会場とし、9月14日午後6時30より開催いたします。中国四大料理のひとつである四川料理をご堪能いただけますよう準備を進めております。大会準備委員会一同、皆様のご参加を心から歓迎いたします。

各委員会からのお知らせ

機関誌編集委員会

委員長 藤田 主一（日本体育大学）

(1) 機関紙編集委員会について

機関誌編集委員会は、現在5名の編集委員で編集作業を行っています。このたび委員の構成が一部変更になりましたので、お知らせいたします。なお、この変更につきましては常任理事会の承認が得られています。現在の編集委員の任期は、2009年3月31日までです。機関誌への投稿に関する質問等がございましたら、お近くの編集委員までお問い合わせください。

委員長 藤田主一（日本体育大学）

委員 田中真介（京都大学）

谷口泰富（駒澤大学）

所 正文（国士館大学）

松下由美子（山梨県立大学）（五十音順）

(2) 機関紙への論文投稿について

①機関誌「応用心理学研究」は、現在、年間2号（秋期号、春期号）を発行しています。機関誌は会員の皆様の投稿によって成り立っています。投稿論文は常時受け付けていますので、下記の「編集事務局」宛にふるって投稿してください。なお、現在の編集体制では、おおよそ4月末までに投稿された場合は「秋期号」、10月末までに投稿された場合は「春期号」に向けて審査（査読）が行われます。審査に時間がかかり、次号に先送りされることがありますので、投稿される場合はゆとりをもって早めにお願いします。機関誌「応用心理学研究」には邦文のほか英文投稿も可能です。投稿・執筆方法については邦文の規程に準じます。英文投稿、英文アブストラクトは、事前にネイティブチェックを受けておいてください。

②機関誌「応用心理学研究」への投稿・執筆規程、編集規程が新しくなりました。詳細は第32巻第2号、第33巻第1号に掲載しましたので、これ

から投稿を予定している会員の皆様は、新規程を参照してください。また今後、学会ホームページにも同様に掲載します。なお、本学会では、現在のところ電子投稿を受け付けておりません。

③論文を執筆・投稿するときには、投稿・執筆規程をよく読んでください。最近の投稿論文の中には、文字数を大幅に超越しているものが見られます。掲載できるのは、原著・資料・総説・実践の各場合、原則、図表を含め機関誌の印刷済で6～10ページ以内です。この範囲に収まるように執筆してください。その他、本文と引用文献の不一致、引用文献の書き方の不統一、統計表記の誤植、英文アブストラクトの誤記、キーワードの未記入など、投稿規程を順守していない論文や単純な記述ミスがあります。投稿時に再チェックし、このようなミス等がないかどうかを再確認してください。

④新編集規程（第32巻第2号、第33巻第1号に掲載）にも記述されていますが、従来の論文形態（原著、資料、総説など）のほかに、「短報論文」と「実践報告」を新設しました。「短報論文」は、機関誌の見開き2ページを1論文とする形式です。「短報論文」のコンセプト、投稿・執筆方法については、別添の内容を参照してください。

⑤「実践報告」は、本学会会員が応用心理学の現場で取り組んでいる活動等を、論文の形式で投稿するものです。現場からの活動成果、メッセージ、新たな視点などを切り口に論述してください。執筆方法は、新投稿・執筆規程に準じますが、必ずしも科学的研究論文の形式にこだわりません。会員の皆様が日々取り組んでいる活動等を、応用心理学の立場からまとめてください。なお、実践報告も審査（査読）の対象になりますので、会員の皆様からの多数の投稿をお待ちしています。

(3) 短報論文への投稿について

日本応用心理学会機関誌「応用心理学研究」に

「短報論文」の形式を新設しました。

短報論文の新設目的は、新しい研究内容を簡潔にまとめ投稿しやすくすること、迅速審査で機関誌に掲載できるようにすることです。短報論文は、第33巻第1号の誌上に初めて掲載されました。全部で6論文です。これらの論文をご覧になればお分かりになるかと思いますが、以下に、短報論文のコンセプト、投稿・執筆の方法等を略記しますので、会員の皆様には、精読の上ふるって投稿してください。

①短報論文として投稿できる方は、投稿者全員が本学会会員（正会員、名誉会員、終身会員）に限りますが、上記の会員であれば誰でも投稿できます。

②短報論文への投稿は、応用心理学に関する未公刊の論文であることが必要です。これには、新規の執筆論文のほかに、修士論文、学会発表、研究会発表などの研究をまとめた論文などが該当します。短報論文は、科学的論文の要件を満たしてください。

③1論文の長さは、図表・文献を含め、「応用心理学研究」の印刷済で見開き2ページとします。1論文を2ページ（B4判）で紹介します。1ページ目の上段左側に邦文による論文名、著者名、所属機関を記述します。邦文の下に英文で同様に記述します。さらに、その下には英文アブストラクト（100語以内）とキーワード3語（英文）を記述します。ここまで文字数を26字×27行の範囲内に収めてください。以下、本文は目的、方法、結果、考察、文献の欄に分けて執筆します。図表は適宜、挿入してください。

④見開き2ページに印刷するため、本文全体の文字数を、投稿時には、1ページ目左側が26字×20行、右側が26字×47行、2ページ目左側が26字×49行、右側が26字×48行の範囲内で執筆してください。文字数の合計は、26字×164行です。特に、1ページ目の左側の本文は20行にとどめてください。タイトルや氏名、英文アブストラクトを記述後に余裕が生じても、この行数を守ってください。キーワードとの間に空白ができるてもかまいません。投稿・採択された論文が投稿時のレイアウトのまま印刷されるのではありません。図表に大幅な行数を必要としたり、印刷上の体裁などに行数が必要なため、投稿者の論文レイアウトと異なりますので、この点を理解してください。なお、別紙に投稿イメージ図を掲載しました

ので、参照してください。

⑤論文（含：図表、文献）が2ページの範囲内に収まるかを確認してください。特に図表が小さすぎないように気をつけてください。科学的論文の要件を満たすこと、英文アブストラクト（必ずネイティブチェックを受けてください）を付加することが条件です。印刷済で2ページを超過する論文は受稿できません。

⑥短報論文は、原著論文・資料論文などと同様に、査読者による審査があります。したがって、学会誌のレフリー論文になります。審査は、学術論文としての研究水準はもちろんですが、それ以上に、研究観点の面白さ、論旨の明解さ、簡潔な内容、研究の発展性などを中心に審査されます。修正を求められたり、残念ながら不採択の場合もありますので、あらかじめ了承してください。また、短報論文として掲載された論文に新たなデータの追加・再処理・論考を加えて、原著論文・資料論文として再投稿することができます。

⑦短報論文への投稿は、上記の文字数（26字×164行）の範囲で執筆した原稿を3部提出してください。ただし、そのうちの2部は著者名、所属機関を伏せたものにしてください。また同時に、仮に見開き2ページにレイアウトした原稿を1部同封してください。なお、本学会では電子投稿を受け付けておりません。

⑧短報論文は迅速審査をモットーにします。したがって、その号の「応用心理学研究」が発行可能なギリギリの時期まで、審査結果を待つことができます。

⑨「応用心理学研究」第34巻第1号（2008年秋期号）へ向けての論文審査を希望する会員の方は、2008年6月末ごろまでに投稿してください。また同様に、2009年春期号へは2008年12月末ごろまでに投稿してください。お待ちしています。

投稿先 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
日本体育大学教職教育II研究室内
日本応用心理学会「機関誌編集」事務局
藤田主一 宛
TEL & FAX 03-5706-0924
E-mail: sfujita@nittai.ac.jp

「応用心理学研究」の「短報論文」投稿イメージ

